

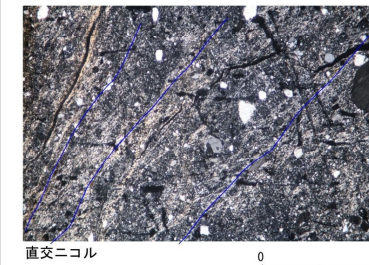
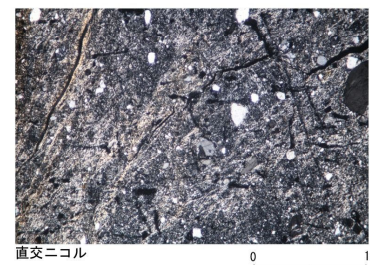
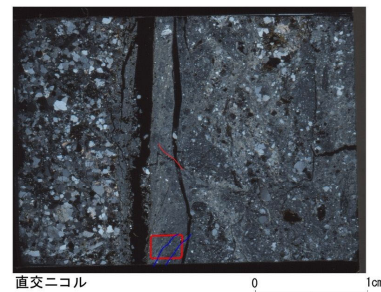
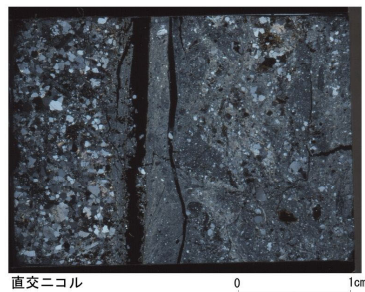
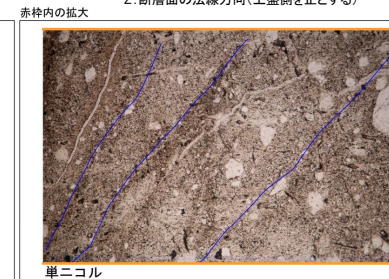
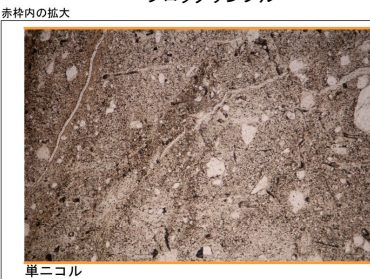
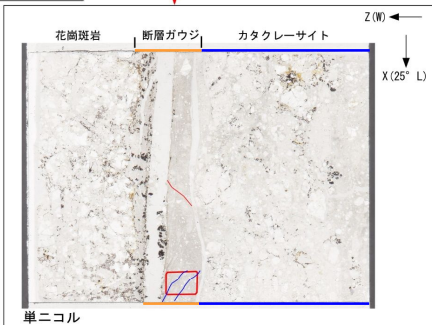
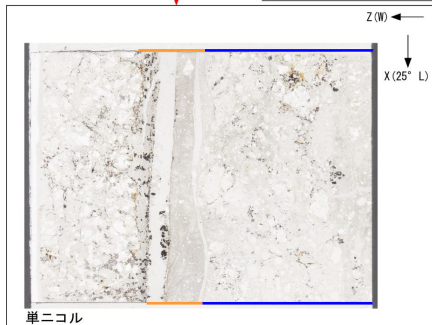
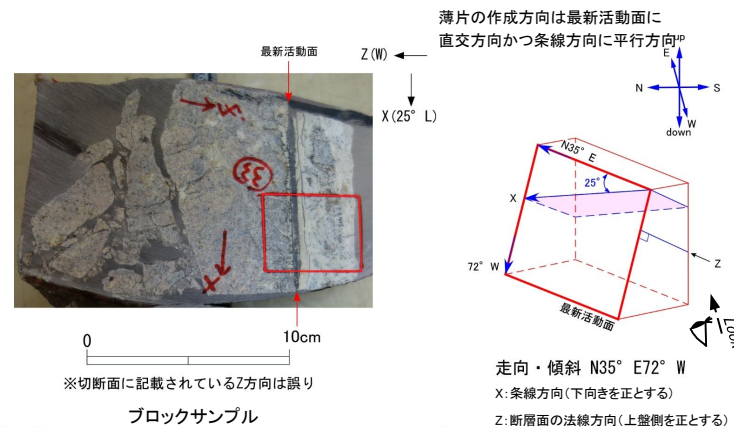
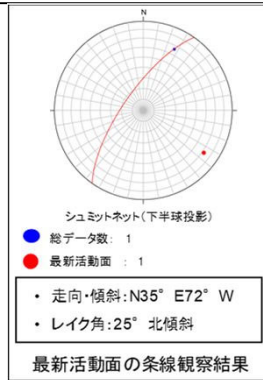
H27-B-2 深度88.88~88.94m f-b-2-14破砕帯 (1/2)

修正箇所

修正後

・H27-B-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度88.91m)の変位センスは、右ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- レンズ状に引き延ばされた岩片が認められる。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

(参考)H27-B-2 深度88.88~88.94m f-b-2-14破砕帯の補足説明

:修正箇所

当該破砕部については、性状一覧表の最新活動面の表示位置が誤っていた(誤:88.94m, 正:88.91m)。なお、薄片試料は正しい位置で観察している。

修正前
(第833回審査会合 机上配布資料2)

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
f-b-2-14	H27-B-2 (傾斜45°)	88.88	88.94	N35E	72W	5.4	2.0	有	非平滑	25L	正	右	

凡 例

← :最新活動面 ← → :破砕幅 :断層ガウジ

修正後

破砕帯名	確認箇所	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕幅 (cm)	断層ガウジ・断層角縁の幅 (cm)	最新活動面		条線方向	変位センス		写真
		上盤深度 (m)	下盤深度 (m)					明瞭なせん断構造変形構造	平滑さ		鉛直	水平	
f-b-2-14	H27-B-2 (傾斜45°)	88.88	88.94	N35E	72W	5.4	2.0	有	非平滑	25L	正	右	


凡 例

← :最新活動面 ← → :破砕幅 :断層ガウジ

注)性状一覧表については今後提出予定

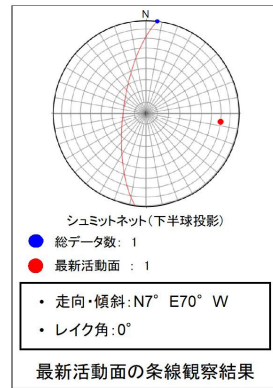
余白

非モデル化破碎部 薄片試料観察(H24-D1-3 深度52.13m)

:修正箇所

修正前

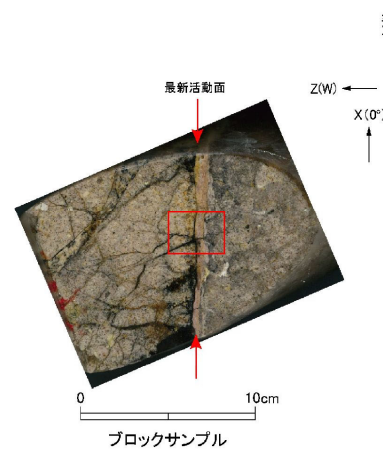
H24-D1-3のボーリングコア(深度52.13m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。



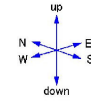
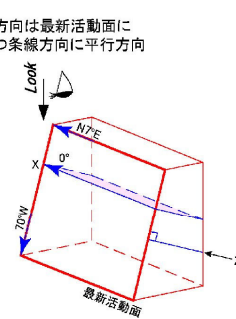
↑ ↓
最新活動面

↑ ↓
最新活動面

最新活動面の条線観察結果

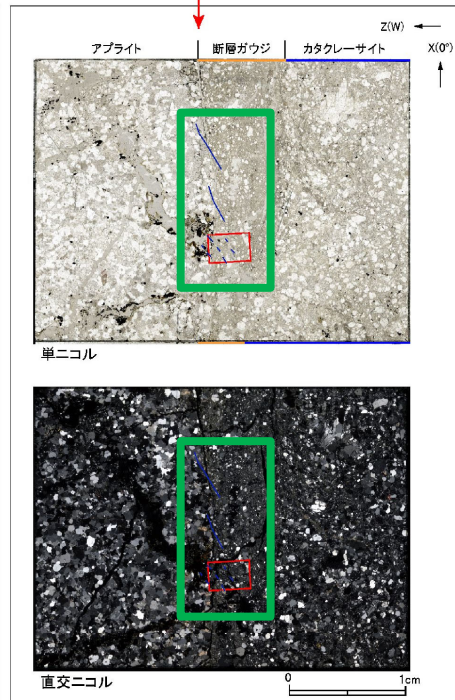
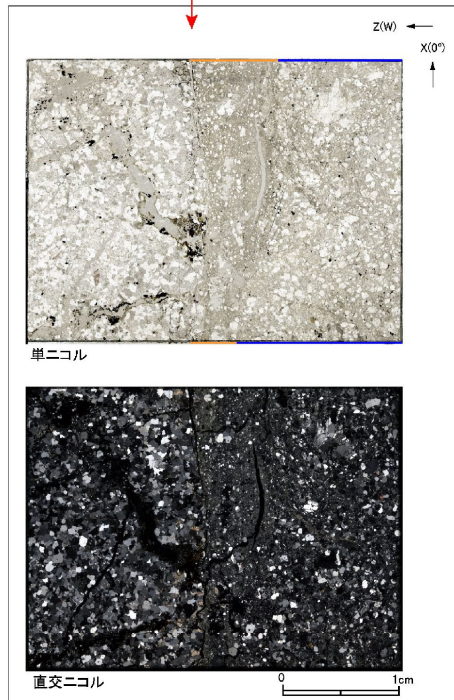


薄片の作成方向は最新活動面に
直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N7°E 70°W

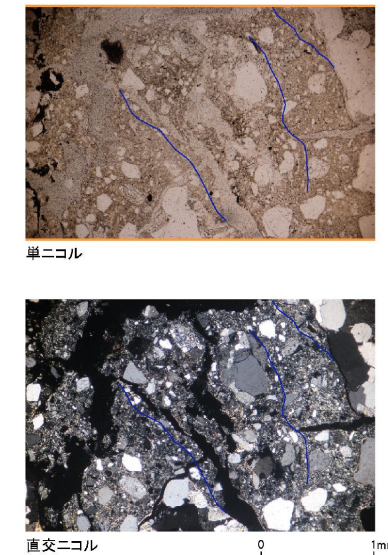
X: 条線方向(北向きを正とする)
Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



赤枠内の拡大



赤枠内の拡大



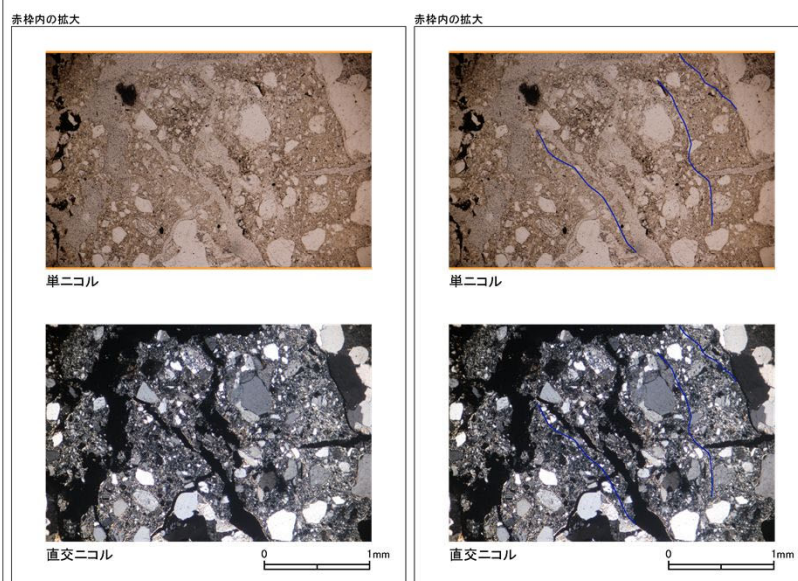
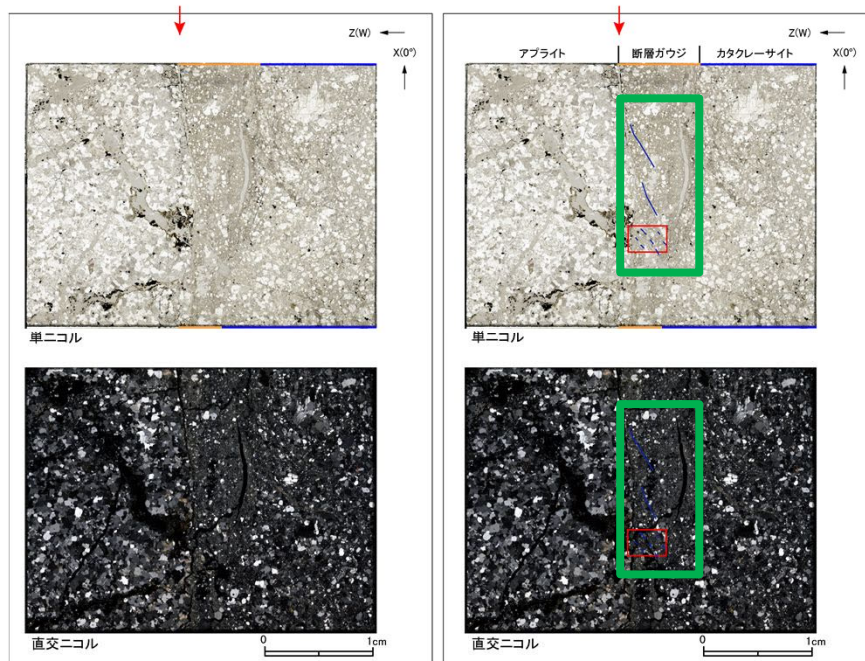
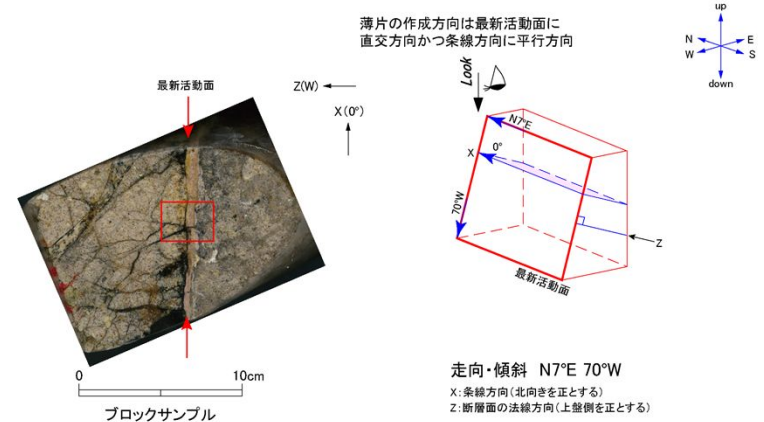
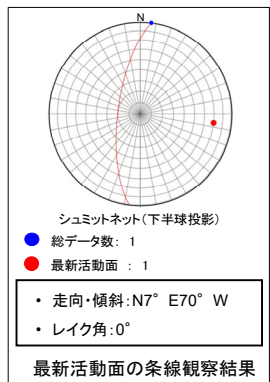
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-D1-3 深度52.13~52.28m 非モデル化破碎部 (1/2)

: 修正箇所 修正後

・H24-D1-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度52.13m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 角ばった岩片が多い。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

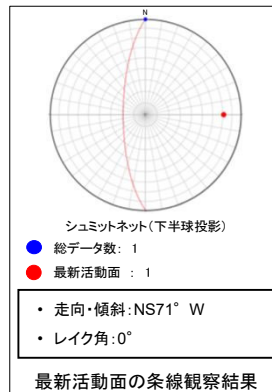
H27-B-3 深度42.85~42.91m H-2破碎帯 (1/2)

 : 修正箇所

修正後

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度42.85m)の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

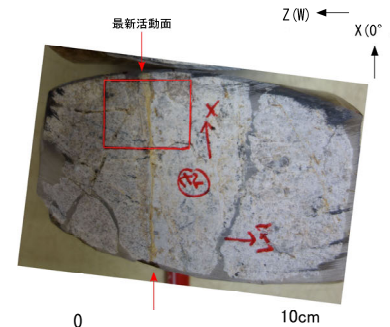


最新活動面

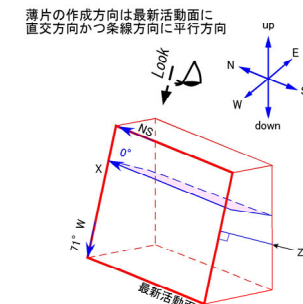
最新活動面の条線観察結果

最新活動ゾーン

最新活動面

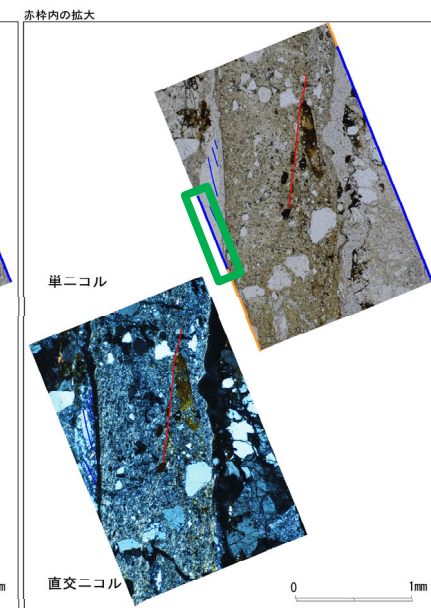
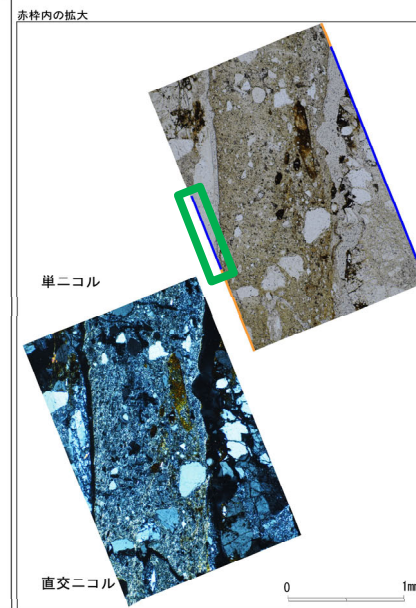
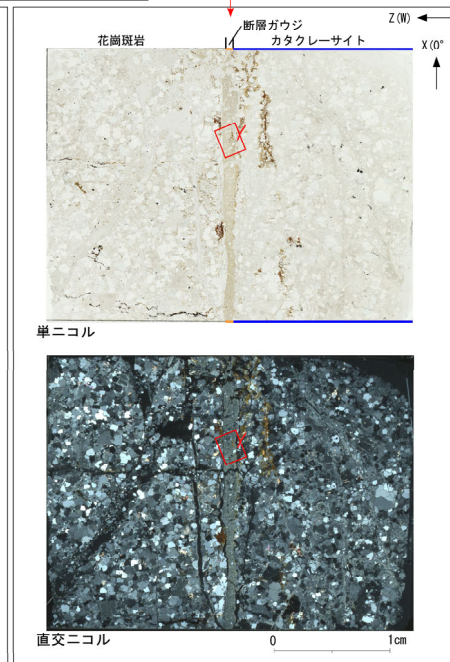
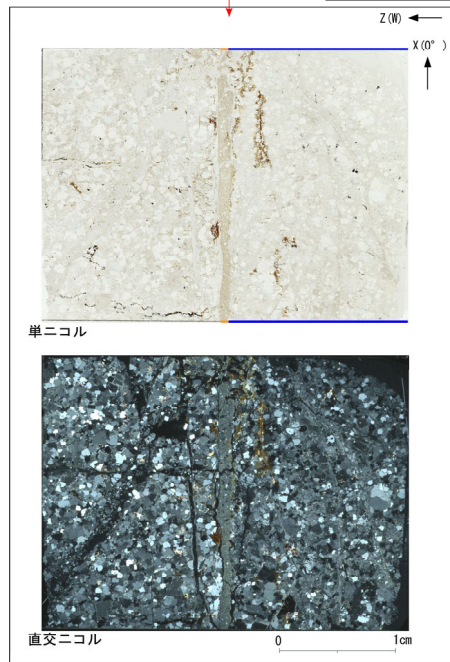


ブロックサンプル



走向・傾斜 NS 71° W

X: 条線方向 (北向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向 (上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

補足4-41

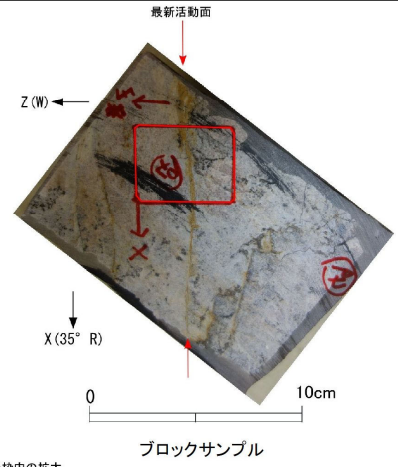
H-3c 破碎帯 薄片試料観察 (H27-B-3 深度76.59m)

 : 修正箇所

修正前

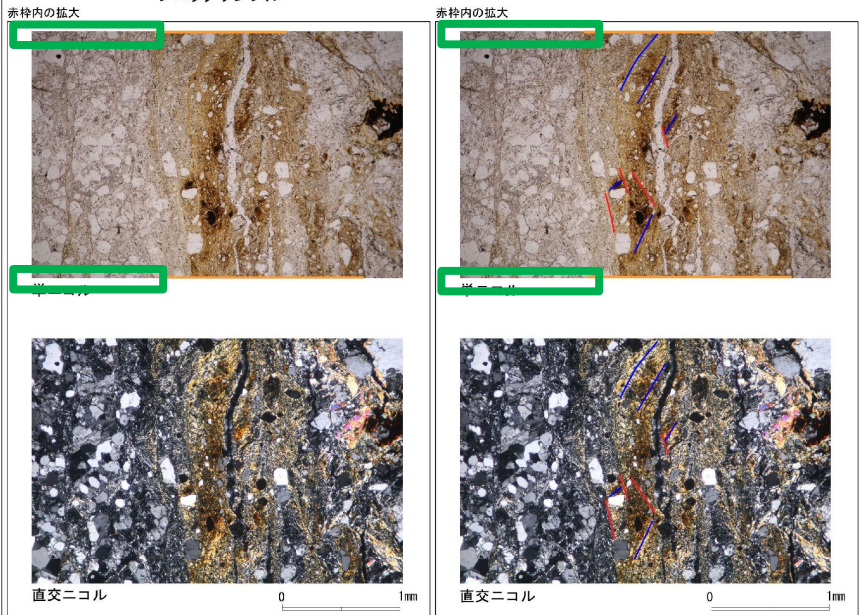
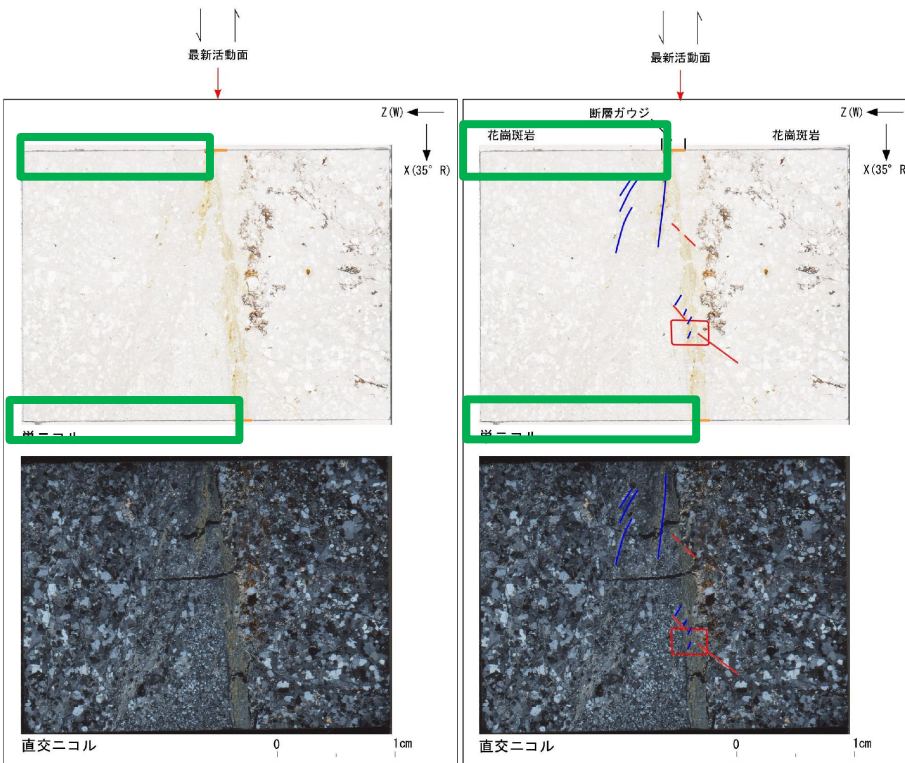
H27-B-3のボーリングコア(深度76.59m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれを伴う正断層である。

走向・傾斜データなし



薄片の作成方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向

走向・傾斜 N-S走向 西傾斜 (仮定)
 X: 条線方向(下向きを正とする)
 Z: 断層面の法線方向(上盤側を正とする)



- 凡例
- 断層ガウジ
- カタクレーサイト
- R1面
- P面

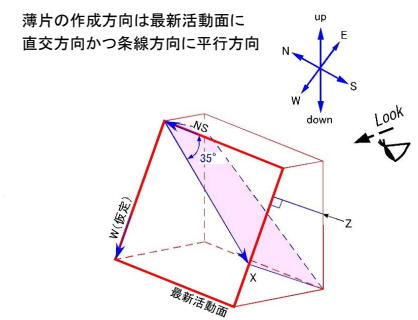
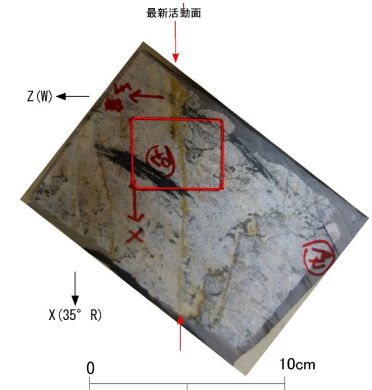
H27-B-3 深度76.59~76.89m H-3c破碎帯 (1/2)

 :修正箇所 修正後

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度76.59m)の変位センスは、左ずれを伴う正断層である。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破碎部であると判断した。

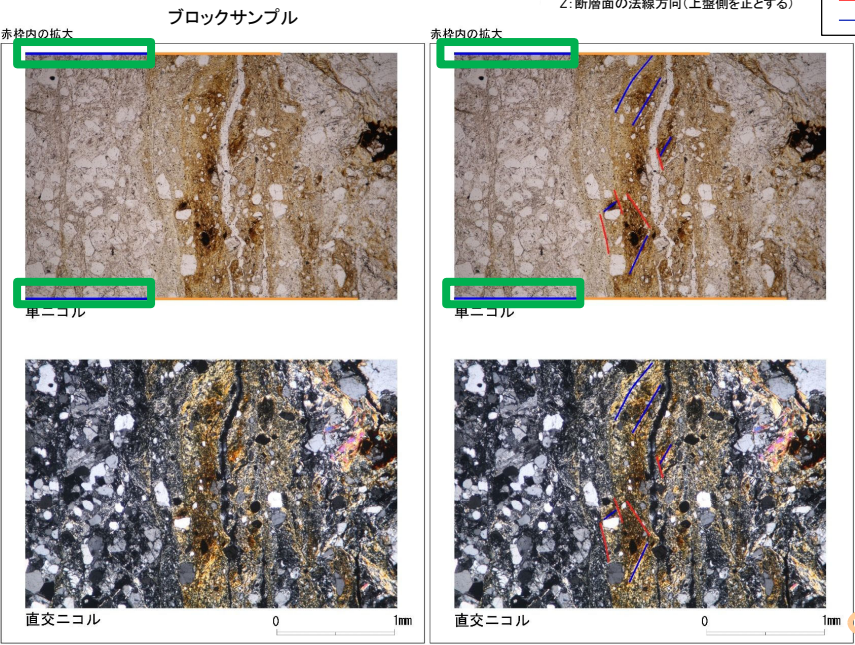
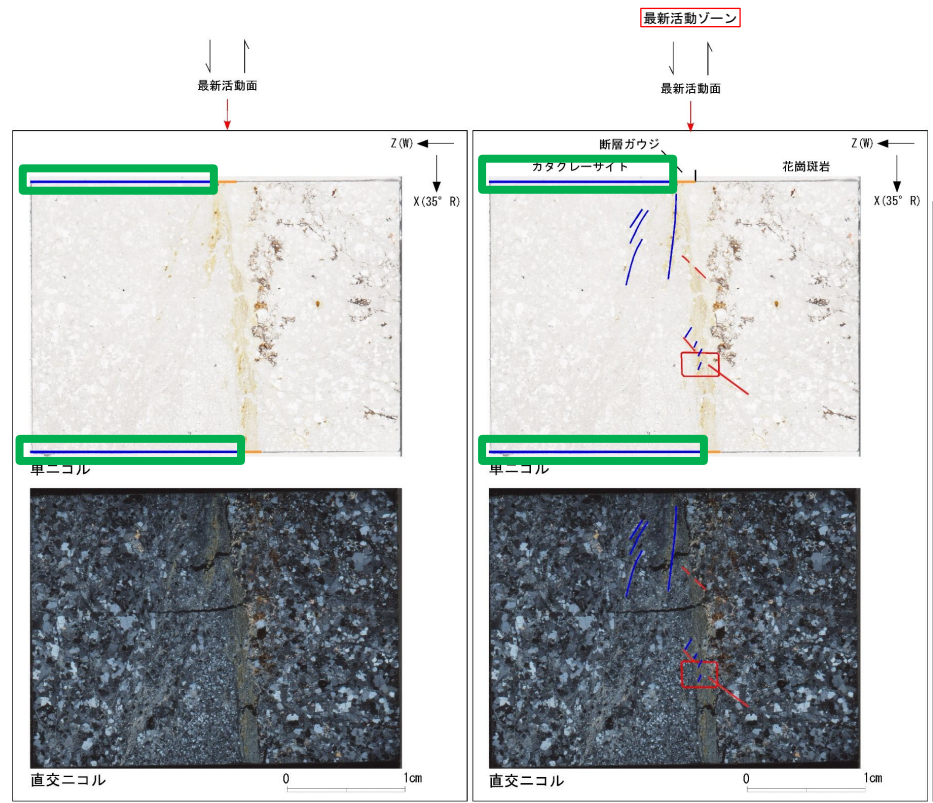
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。

走向・傾斜データなし



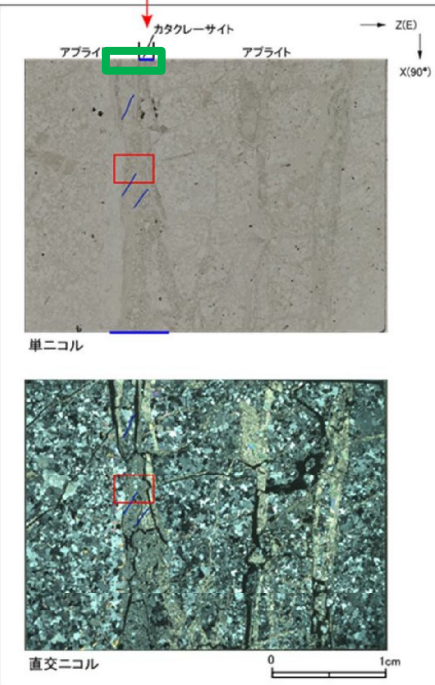
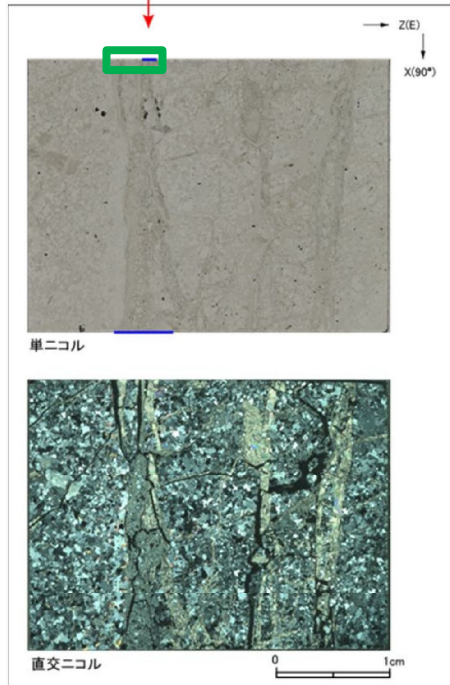
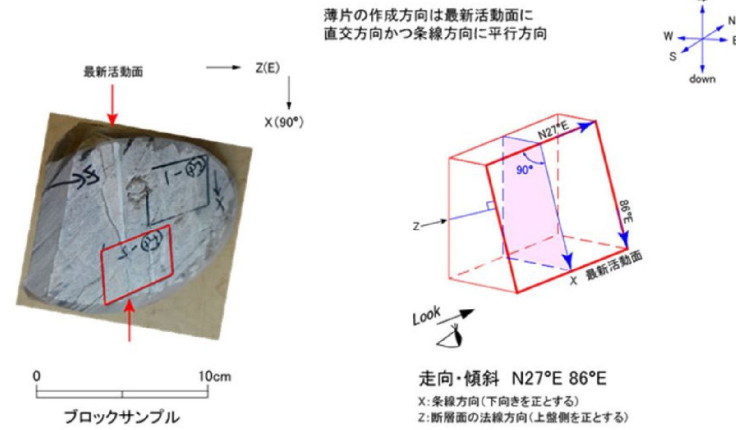
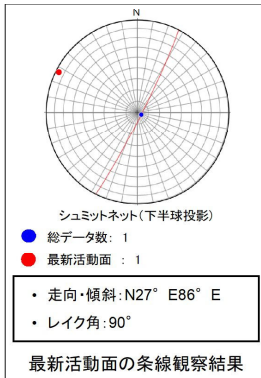
走向・傾斜 N-S走向 西傾斜(仮定)
 X:条線方向(下向きを正とする)
 Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

凡例
 断層ガウジ
 カタクレーサイト
 R1面
 P面



非モデル化破碎部 薄片試料観察(H27-B-3 深度129.84m)

H27-B-3のボーリングコア(深度129.84m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。



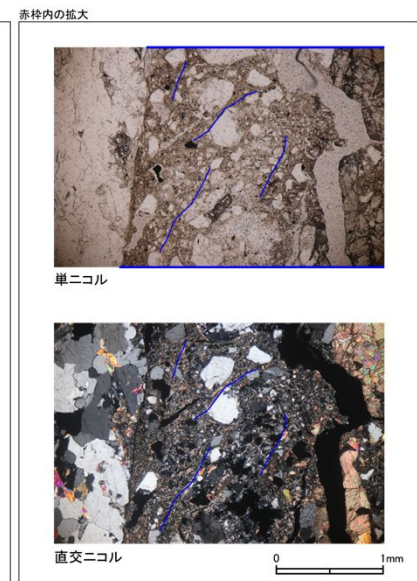
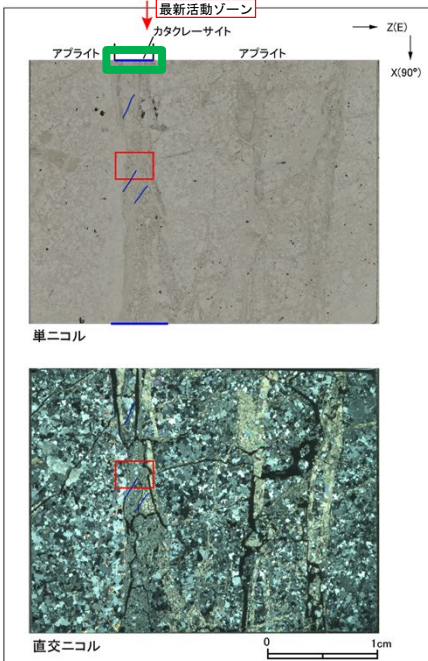
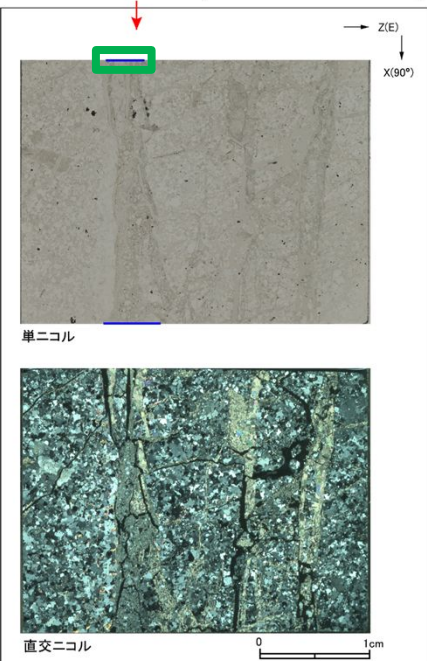
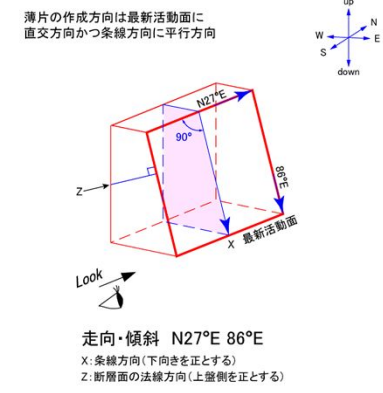
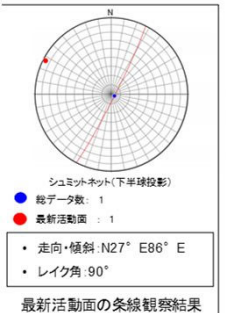
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H27-B-3 深度129.84~129.91m 非モデル化破碎部 (1/3)

: 修正箇所 修正後

・H27-B-3のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度129.84m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。

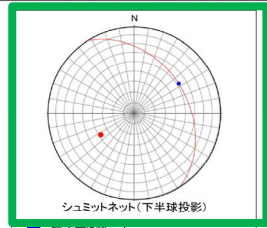
- 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- 最新活動面に沿った帯状の粘土状部は連続しない。
- 多様な粒径の岩片が多く認められる。
- 角ばった岩片が多い。
- ジグソー状の角礫群が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。
- 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

K断層 薄片試料観察(H24-H-6-1 深度9.58m)

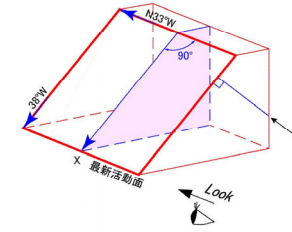
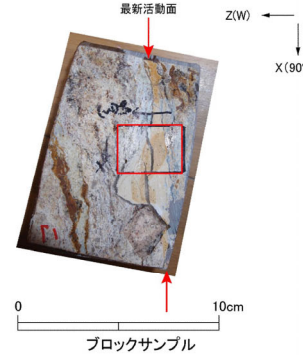
H24-H-6-1のボーリングコア(深度9.58m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、逆断層成分が卓越する。



最新活動面の条線観察結果

- 最新活動面 : 1
- 走向・傾斜: N33° W38° W
- レイク角: 90°

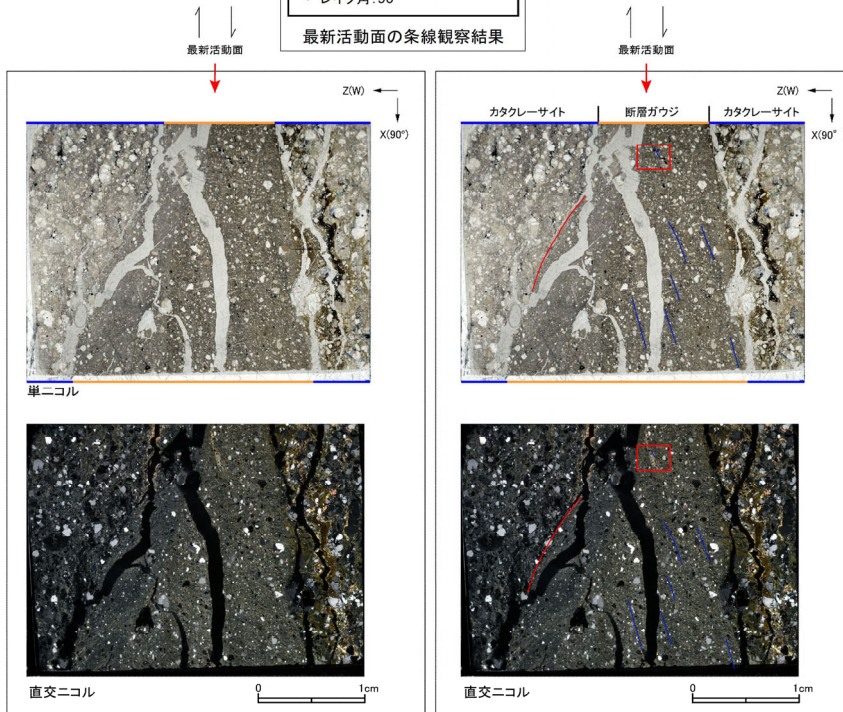
薄片の作成方向は最新活動面に直交方向かつ条線方向に平行方向



走向・傾斜 N33°W 38°W

X:条線方向(下向きを正とする)

Z:断層面の法線方向(上壁側を正とする)



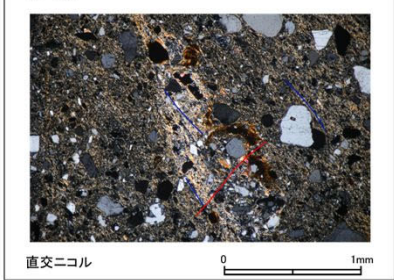
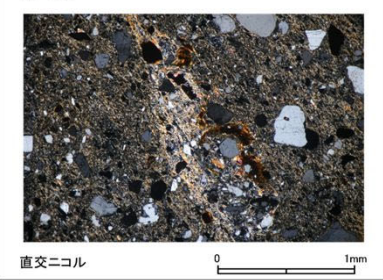
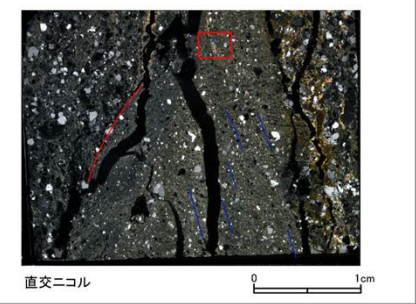
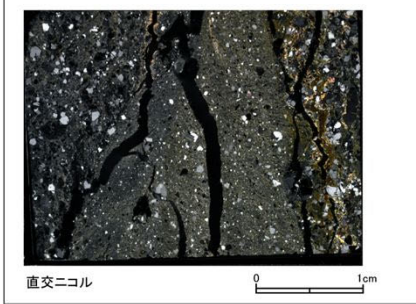
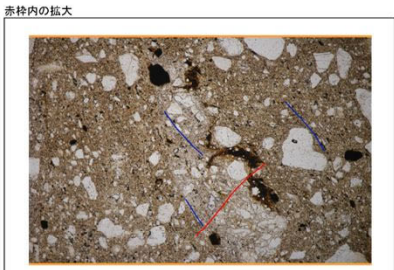
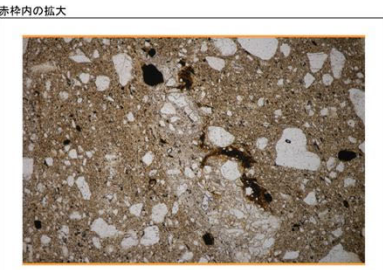
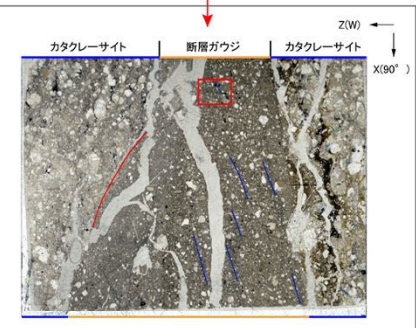
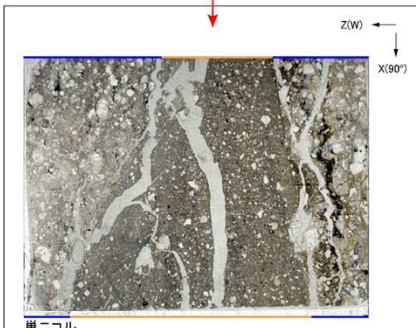
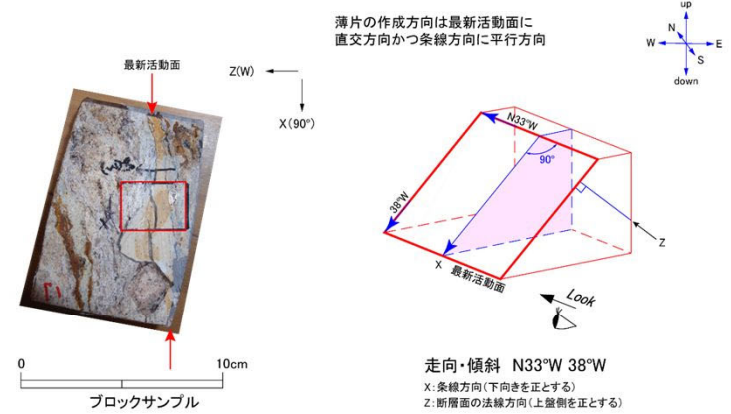
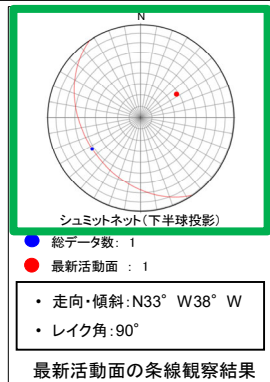
- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

H24-H-6-1 深度9.58~14.36m K断層(1/2)

 : 修正箇所 修正後

・H24-H-6-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面(深度9.58m)の変位センスは、逆断層成分が卓越する。
 ・追加した文献も踏まえて薄片観察を実施し、最新活動ゾーンに認められる以下の特徴を薄片観察における断層岩区分の考え方に照らして、断層ガウジを伴う破砕部であると判断した。

- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- 基質は粘土鉱物を主体とする。
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- 丸みを帯びている岩片が多い。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。



- 凡例
- 断層ガウジ
 - カタクレーサイト
 - R1面
 - P面

余白